

## 委員プレゼン等での主な意見（集約）

## 1. ビジョン（全般）について

- 自分自身は図書館プラスという言葉を使っているが、私たちの生涯学習センターだと言える、**作るときから住民参加型**の打ち合わせ等が必要。**地方創生の一端**を担い、世界・全国と繋がって情報を吸い取ることができるような生涯学習センターのようなもの作れば面白い。
- 色々な制約は抜きにして、こんな図書館／生涯学習センターがあったらいいなという中で、**皆が集まれる、触れ合える**ために、こんな場所があったらいいな、こんなん欲しいな、というアイデアをまずは出してみるということが大切。（第2回）
- 健康年齢を高めるエリア、幸福年齢を高めるエリア、まちをPRするエリア、その**全てのエリアが近隣に存在しフィールド**となる。その**フィールド全体がまちづくりの拠点**であり、おもちゃ箱のような存在であって欲しい。何年たってもワクワクする正の遺産として、住民に愛情の灯火を照らすフィールドとなっていて欲しい。（第2回）
- **外国人の増加：グローバル化**の中で、図書館をどう位置付けるか。（第2回）
- このグループワーキングの中に、**高校生・中学生**、実際に図書館／学習センターを**これから使う世代**のメンバーがいない。（第2回）
- 図書館はインプットする場であり、インプットをし続けていくと、アウトプットしたくなるため、**アウトプットできるような図書館**、話ができる図書館があったらいいと思った。（第3回）
- 建設して良かったと言われる生涯学習センターを考えるようになったが、みんなが使い続けるとか触れ合う場で、結局使い続けたら成功なのだと思う。だから、できたらとにかく**みんなで使うことを考えることが必要**だと思っている。（第3回）
- 大きな経済循環でなくても良いので、多可町の皆さんが持っている知識・興味・関心・スキルに対して、多可町の人々が納得して対価を払って、**小さな経済循環の輪が沢山ある**、そういうことが詰まった施設にしたい。（第3回）
- **きっかけづくりの場所**であって欲しい。自分の好きなことや得意なこと、それが誰か・何かのきっかけになって、自分にとっても、相手にとっても幸せなことになる、それが叶うような場所。それがこの新センターであれば良いと思っている。（第3回）
- ライフステージの異なる人々が共に利用できて、利用しやすい施設であるために、ある程度の大きさの枠の中に色々なエリアがあって、気軽に行き来できて、個も尊重しつつ、一方で相互交流ができるような仕組みがあって、**共生・共有・共存意識が自然に育まれていくような開かれた施設**が良い。（第3回）
- 生涯学習センターとは子供たちが学ぶところ、生涯自分が学ぶところ、住民はいつも学んでおられるという姿が理想的。学びの拠点として、**人口に見合ったもので、全世代が活動しやすく、高齢者に優しいセンター**、職員の皆さんが働きやすい施設となると図書館がセンターの核になると思う。（第4回）
- 学習センターの建設計画のことを話し始めたときに、意外と**知らなかった人が多かった**。その状態でみんなが本当に望むセンターにあるんだろうかという意見も出た。（第4回）

- 大人だけの都合で箱物をつくらないでほしい。予算の制約はあるだろうが、**小中学校の各種会議とも連携**し、本当に**利用価値のある**、皆がハッピーになれる**複合施設**を建設してほしい。(第4回)

## 2. 施設（構造・規模・費用）について

- 前回構想で気を付けた点は財政計画。膨らんだ要望をカットして、当時の町財政に見合う規模に縮小した。膨らんだ結果の9億円という計画ではない。**夢は限りなく語ってもらっても、最終的には財政規模を考慮**しなければならない。(第1回)
- **皆さんが集まれるところを確保する**→そのためのセンターの構造を考える必要：単純にこの部屋があったら良いではなく、使いやすい形の部屋など。(第2回)
- 図書館の規模は**決して大きなものは必要ない**。小さい／何かに特化した図書館→ただし、現時点で機能を絞りきることもできない→例) 森の中の図書館、**カーボンニュートラルとか省エネの視点**も必要。(第2回)
- 建設に当たっての財政計画では、前提となる**人口推計**が確かであることが重要。(第3回)
- 懸念としては、10年後・20年後に、**子どもたちに財政負担**を大きく掛けることは非常に心苦しいと思っている。(第3回)
- プール利用者も減り、体育館も沢山は不要という時代になってくるにあたり、生涯学習センター兼、子育てふれあいセンター兼、図書館兼、のような**複合的な施設**が考えられると思う。町の姿勢としてももう少し**総合的に考えていただけるよう要望**する。(第3回)
- 多可町**図書館の利用者減少**等の課題にも十分に踏まえた上で議論が必要。(第4回)
- **八千代プラザの図書館**や**加美区の図書館**はすごく使いやすく日常的に行ってるため、大きなセンターとは別に残して欲しい。(第4回)

## 3. 機能について

- **平成25年から経過**があるため、現在の講座内容や、年代・人数などの直近データをもとに、使い方とか、どうやって作っていくか、**誰に利用してもらうか**を提案すべき。(第1回)
- 鳥取県庁内図書館は**リファレンスサービス強化型の図書館**。小さいながらも連携によって世界の情報と繋がることができている。(第2回)
- 多可町図書館は限界、アスパルも改修が必要、子育てセンターがある旧中町保育園も作り直す必要があるため、それら**全てを含んだ空間として建築を考える**べき。(第2回)
- 他施設の事例では、**子育てセンターと一括**とする施設が多い。図書館等の場所がバラバラでは不便であり、行く側としては1つだったら便利(近隣では西脇市 Miraie)。また子どもの頃から通う場所であれば、**小中高生も行きやすい場所**になる。(第2回)
- 学習**アドバイザー**や生涯学習**コーディネーター**が必要。(第2回)
- 図書館は絶対必要、ただし箱物図書館(**高額な図書館**)**はいらない**。→視点として子どもたちのためのものが必要。(第2回)
- 空間。例えば、ピアノを置いて誰でも引けるような仕組み「誰でもピアノ」。コンサートホールとしても使える機能を持ったところが欲しい。**それが発表の場**である。(第2回)

- **スポーツ**に関しては、今のアスパルにあるような機能が、もっと積極的に取り入れられるべき。  
(第2回)
- 今の子育てふれあいセンター：広さ・機能十分でない。→繋ぎの場としての子育てセンター、**学習スペース、子供たちの居場所**、そういう機能もやっぱり欲しい。(第2回)
- 八千代のスーパー（農協）がなくなった＝人の集まりがなくなってしまった、**集まる場所が減ってしまった**。中央公民館も目的の違うものになっている（なくなってしまった）。(第2回)
- 子育て：環境整備は本当に大事。子育て学習センターが幼稚園の後にできた→これは大きなプラス、これを生かさないといけないのでは→**ゾーンとかエリアを絶対大事にしない**といけない(第2回)
- **多可町文化**を残す。(第2回)
- 図書館は、高齢者から子どもたちへ、というベクトル→**多世代に渡って触れ合いができる場所**、お年寄りがいて子どももいる。そのバランスが非常に大事。(第2回)
- 生涯学習として自身が学ぶだけでなく、得た**知識や技術等を次世代へ継続できるシステム**が構築できること。(第3回)
- 生涯学習として得た知識や技術を、**小さな経済活動に変換するシステム**が構築できること。また、その小さな経済活動を、多くの人が**気軽に始めることができるシステム**を構築すること。  
(第3回)
- 小さい子供やファミリー層を対象とした、**木育**が実施できる場所があること。知識と技術を持った高齢者の方が次世代にその木工の技術とか、**体験・知識をバトンタッチできる場所**であること。(第3回)
- ママさん世代、小さな農家さん、ハンドメイドや手芸が趣味といった人たちが、大きな収入にはならなくても、日々のお小遣い稼ぎができ、育休、休業中の母親でも、**自分のスキルがお金に変えられるような場所**があること。(第3回)
- 岡山県奈義町の「なぎチャイルドホーム」、**一時保育サポート「すまいる」「しごとコンビニ」**のような取組が参考になる。(第3回)
- **展示スペースや舞台、発表の場**も必要。**SDGsの視点**を大切に。**中学生の読書時間・図書館利用**が少ないので、利用しやすい環境。バス通学の際の**登下校の待ち時間活用**などを整備してほしい。読書や学習に合った静かな空間だけでなく、子供や幼子を持つ親にも配慮した**開放的な空間**や学習スペース、**カフェや飲食スペース**も、**Wi-Fi環境**も整備してほしい。(第4回)
- 全国で読書図書館利用を急増させたシステムである**読書通帳**を発行する。**個人用の勉強室**をつくる。1人で行くのが苦手な子や学校に行きにくい子が**人目を気にせず調べ物ができる環境**(第4回)
- 役場とかアスパルなどで賄い切れない**女性向けの講座の開設**。**身障者用のトイレ**の設置。**電子書籍**の充実。子供も含め、学習できるスペース。地球、環境に優しい杉原紙や播州織など、**地産地消を感じられるづくり**、またはコーナー。誰でも入りやすい**バイアフリー**な建物。婦人層がちょっと気晴らしに、また、リフレッシュできるような**気楽に集える場所**。多可町婦人会の活性化のための調理実習を、充実した調理器具がそろった**調理室**で行いたい。(第4回)
- 児童館が老朽化しているため、生涯学習センター建設という機に、小中高生が集える場所として

児童館を盛り込んだ施設にしてはどうか。(第4回)

- 老人会としては、小さい子と触れ合いたい機会がないため、具体的な方法の検討はまだだが、機会をつくって欲しい。(第4回)
- 紙の本ではなくパソコンの中だけでも完結するような、本のデジタル化に対応した図書館である必要もある。(第4回)
- 子供の意見で学習室が静か過ぎるというものがあつたため、静か過ぎる学習室だけではなく、少しでも音楽が流れているような部屋もあってよい。(第4回)

#### 4. 候補地について

- 人口減少・少子高齢。1ヶ所には本当は集めない方がいいのだけども、集めざるを得ない。交通手段：山間部、周辺部・境部の高齢者の方の交通手段が、絶対必要になる。(周辺環境整備)(第2回)
- エリアは北播磨全体で考える。多可町で考える。(第2回)
- 川から離れたところに建設するとのことだが、堤防をもっと頑強で高いものにする発想はないのか。(→町：千年に一度に耐える構造物では非現実的な規模になる。)(第3回)
- 交通難。多可町は広いので、子供・高齢者の方のアクセス手段は重要な論点。(第3回)
- 子育てふれあいセンターの近くに生涯学習センターができるならば、交流事業に積極的に取り組みながら人と人をつなげる一翼を担っていきたい。(第4回)

#### 5. 運営について

- 北海道の北広島市図書館は地域の問題を解決するための図書館として、200名のボランティアが自分たちで運営する図書館となっている。(第2回)
- 仮にPFI手法を用いる場合、ハードは良質なものになるため、ソフト面が重要になる。(第2回)
- 新しい地域課題：新しい方が入ってくる→コミュニティの中の小さな問題？地域間での交流の問題も出てきている→新しく学べる、皆で作る取り組みが必要。(第2回)
- 今の図書館は非常にスタッフが良い→やっぱり大事なものは人である。(第2回)
- 行政にお任せする時代は終わっており、住民が中心でやっていくにも、ボランティアや非営利で活動する時代も終わっている。そこで民が主導で行政を引っ張っていき、行政の予算を民がいかとうまく使うかということが課題。(第3回)
- 官民連携のNPOとか一般社団法人とかを設立して、自治体の職員も関わってもらい、民の人たちも運営自体に関わっていくような運営体制をしていくという議論ができたらと思う。NPOや一社は、役場職員が出向という手段もあり、民の登用可能性も充分ある。(第3回)
- 最終的にPFI手法を使わなかったとしても、ソフト的な部分に力を入れている専門業者が図書館を作っているため、話を聞いてみたい。(第4回)
- 運営の中でPDCAのチェック機能を作るが、作った以上、第三者の目でチェック・評価できる権限を持たせ委員会を直営とは別に設けた方がよい。(第4回)